

令和3年版 建築設備設計基準の正誤表について  
設備設計基準 第3刷用正誤表

頁	編	章	節・項	項名称	訂正箇所	誤	正
43	2	1	4 4-1-1	誘導灯の設置及び器具の選定	表4-2 (タイトル)	誘導灯の仕様及び <b>機種</b> 、入力容量	誘導灯の仕様及び <b>器種</b> 、入力容量
73	2	2	2 2-4-3	高調波対策	(1)① 高調波発生機器の等価容量は、次により算出する。	Pi : 各機器の <b>入力定格容量</b> [kVA]	Pi : 各機器の <b>定格入力容量</b> [kVA]
75	2	2	2 2-4-3	高調波対策	表2-11 インバータの定格容量	<b>入力定格容量</b> Pi [kVA]	<b>定格入力容量</b> Pi [kVA]
140	2	6	2	2-2-2 外部雷保護との絶縁	(1行目)	Km : 電気絶縁材料に係わる係数 (表2-11による。)	Km : 電気絶縁材料に係わる係数 (表2-15による。)
141	2	6	3	3-1-2 接地と雷等電位ボンディング	(4)	「・・・最小寸法は、表2-7及び表2-8による。」	「・・・最小寸法は、表2-11及び表2-12による。」
160	2	8	4-2	受変電設備 単線接続図例	図4-4 (図中 : 最左変圧器)	<b>1</b> φT	<b>3</b> φT
172	2	8	4 4-4-7	高圧進相コンデンサ、低圧進相コンデンサ及び直列リアクトル	(3)	高圧進相コンデンサ及び低圧進相コンデンサは、次による。また、直列リアクトルの%リアクタンスは、原則としてコンデンサ定格容量の6%とし、特記する。 ① (2)、(3)より所要設計無効電力の合計を求める。	高圧進相コンデンサ及び低圧進相コンデンサは、次による。また、直列リアクトルのリアクタンスは、原則としてコンデンサ定格容量の6%とし、特記する。 ① (1)、(2)より所要設計無効電力の合計を求める。
282	3	2	4 4-5	構成例	図4-1 構内交換設備の構成例①	備考 (1) 停電時は、発電機から光回線終端装置 (ONU)、ルータ、ファイヤウォール、交換装置等に電力を供給することにより電話機を使用できるようにする。	備考 (1) 停電時は、発電機から光回線終端装置 (ONU)、交換装置等に電力を供給することにより電話機を使用できるようにする。
284	3	2	5	設計資料	(1)	交換機室及び電話交換室は、外部からの浸水又は水配管等からの漏水がないよう <b>浸水措置</b> を施すものとする。	交換機室及び電話交換室は、外部からの浸水又は水配管等からの漏水がないよう <b>対策</b> を施すものとする。
349	4	1	2-2	冷房負荷計算	下から14行目	(3) <b>廊下</b> 通気が無い場合は、～	(3) <b>床下</b> 通気が無い場合は、～
358	4	1	2-2	冷房負荷計算	表2-14 (a)、表2-14 (b)の注	<b>実効温度差</b> を求め	<b>小屋裏との温度差</b> を求め
367・368	4	1	2-2	冷房負荷計算	表2-15 (e)～2-15 (j)の備考 (計6箇所)	(2) <b>設計室温〇度と異なる場合、表の値に(〇-設計室温)を加える。</b>	削除
					表2-15 (e)～2-15 (h)の備考 (計4箇所)	(4) <b>屋外及び屋根断熱の実効温度差は、非常熱伝導として算出した。</b>	削除
373	4	1	2-3	暖房負荷計算	下から9行目	(3) <b>廊下</b> 通気が無い場合は、～	(3) <b>床下</b> 通気が無い場合は、～
441	4	1	5-1	空調機和機の算定等	(2)の標題	(2)全空気方式の空気線図の <b>作成法</b> ・計算式	(2)全空気方式の空気線図の <b>作図法</b> ・計算式
448	4	1	5-1	空調機和機の算定等	(4)のウ	ウ風量比・・・冷温水入り口温度が表5-2、 <b>表5-4～表5-6</b> の条件と異なる場合は、図5-8～図5-14により・・・	ウ風量比・・・冷温水入り口温度が表5-2の条件と異なる場合は、図5-8～図5-14により・・・
470	4	1	5-3-4	パッケージ形空調機和機の選定	下から7～8行目	(3)空冷式～補正された <b>冷房</b> 能力から選定し、～	(3)空冷式～補正された <b>冷暖房</b> 能力から選定し、～
532	4	2	4-1-4	低圧蒸気管の算定	(4)①許容圧力降下γ	$\gamma = \frac{\angle P / (L+L')} {P / (L+L')} \approx \frac{\angle P / 2L (\approx 100 \angle P / (L+L'))} {P / (L+L')} \approx 100 \angle P / 2L$	$\gamma = \angle P / (L+L') \approx \angle P / 2L$
554	4	3	表3-1	ダクト系の抵抗計算	(B)円形ダクト (9)表	$Q_2 / Q_1$	$Q_2 / Q_1$
579	4	4	3-2	必要換気量の算定	(1)③式中の係数	$Q = \frac{W}{C_p \cdot \rho (x_i - x_o)}$	$Q = \frac{W}{\rho (x_i - x_o)}$
602	4	5	3-1	特別避難階段の付室及び非常用エレベーターの乗降ロビーの排煙設備	表3-1の最下行	床又は壁の下部 (天井高さの <b>1/2以下</b> の部分で上端の高さを基準とする。)	床又は壁の下部 (天井高さの <b>1/2未満</b> の部分で上端の高さを基準とする。)
603	4	5	3-1	特別避難階段の付室及び非常用エレベーターの乗降ロビーの排煙設備	図3-2 排煙口と給気口の取付位置	$h_1 \geq 1/2H, h_2 \leq 1/2H$	$h_1 \geq 1/2H, h_2 < 1/2H$
614	5			技術資料等の記載ページ	下から2行目に追加		<b>第6章 消火設備</b>
636	5	2	7-2	管径の算定	(3)高置タンク方式における高置タンク以降の給水管の管径決定 下から5行目 注(1)代表給水器具	(1)代表給水器具とは、高置タンクとの高低差に相当する圧力、配管抵抗と給水器具の必要最小圧力の <b>和が最大</b> となる給水器具をいう。	(1)代表給水器具とは、高置タンクとの高低差に相当する圧力 <b>から</b> 配管抵抗と給水器具の必要最小圧力を <b>減じた値が最小</b> となる給水器具をいう。

頁	編	章	節・項	項名称	訂正箇所	誤	正
673	5	4	4-1	グリース阻集器の算定	表4-1の数値	表4-1 各因子の標準値 因子 gb 社員・従業員食堂 <b>6.5</b> 学生食堂 <b>3.0</b>	表4-1 各因子の標準値 因子 gb 社員・従業員食堂 <b>3.0</b> 学生食堂 <b>1.0</b>
752	5	7	3-5	配管	図3-2 「ガス栓の液化石油ガス通過量と圧力損失」の圧力損失単位	圧力損失 ( <b>mmH<sub>2</sub>O</b> )	圧力損失 ( <b>P<sub>a</sub></b> )
777	6	2	2-3	潜熱(外気負荷用)-顕熱(室内負荷用)分離形の空気調和機系のシステム	図中の空調機内の検出器記号(潜熱コイルの右)	T E D 1	T <u>D</u> E D 1
847	7	1	2-2	ロープ式エレベーター	上から7行目	(3)安全装置は・・・ なお、釣り合いおもり側 <b>下階</b> に・・・	(3)安全装置は・・・ なお、釣り合いおもり側に・・・